

# 學 藝 新 聞

第22号 2023年（令和5年）3月20日発行

発行元

■ 高等学校卒業式	1・2
■ マルチカルチャーデイ(附属中学校)	3
■ 輝く人(卒業生)	4
■ 輝く人(在校生)	5
■ 国際科	6
■ サイエンスラボ・ボランティア	7
■ 花香庵	8

学校法人 大阪学芸  
 大阪学芸高等学校  
 大阪学芸高等学校附属中学校  
 〒558-0003 大阪市住吉区长居1丁目4番15号  
 TEL.06-6693-6301 FAX.06-6693-5173

# 大阪学芸高等学校 卒業式

## 大阪学芸高等学校 卒業式



# 614名未来へ翔ける!

2023年2月22日、今年度も無事に卒業式が執り行われ、卒業生を送り出すことができました。思い返せば、入学前からコロナ禍に翻弄され続けた学年でしたが、生徒たちは3年間元気に前向きに頑張ってきました。

1年生は、入学式の中止に始まり、4・5月は慣れないオンライン授業。分散登校を経て、6月中旬からやっと通常登校ができるようになりました。6月になって初めて顔を知るクラスメートがいたり、マスク越しで相手の表情がなかなか読み取れなかったりと、コミュニケーションをとるのも一苦勞だったことと思います。私たち教員も生徒たちと話をする時や場が限られる中、放課後に有志の生徒と教室の机やイスを消毒しながらのわずかな時間、他愛ないお喋りをしたことも、今では

良い思い出となっています。

2年生は、楽しみにしていた修学旅行が延期になり、文化祭や体育祭といった行事もままならず、また、日常生活も前を向いての黙食等、感染対策を徹底しながらの学校生活が続きました。本当に歯がゆく窮屈な思いをしたことでしょう。しかし、さまざまな制限が設けられる中で、生徒たちは自分たちなりに考え、学校生活を工夫しました。お昼休み、黙食で昼食を食べた後は、マスクをつけグラウンドに出て、ソーシャルディスタンスを保ちながらのんびり会話をする姿も見受けられました。

3年生になり、国内ではありますが、なんとか修学旅行実施にこぎつけ、文化祭も完全に通常通りとはいえないまでも、感染防止対策を取りながらの開催とな

りました。修学旅行が終わった後、ある生徒が「普段朝はなかなか起きられないのに、修学旅行中は楽しくて、自然と早く起きることができた」と言っているのを耳にしたとき、また、教室で楽しそうに文化祭の準備をしている生徒たちの姿を見たとき、本当によかったと感じました。最後の学年で行事を目一杯楽しむ生徒たちの姿を見ることができて、うれしい限りでした。

この3年間、生徒たちはたくさんの不自由な思いを経験してきました。その分楽しかったことや感動したことが思い出として色濃く残っているのではないのでしょうか。卒業生たちが3年間の高校生活を糧に、素晴らしい未来を歩んでいくことを期待します。

学芸ニュース

# 第118回卒業式



## 2023年2月22日、堺市にある「フェニーチェ堺」にて 高等学校卒業証書授与式が挙行されました。



会場

穏やかな陽差しのもと、卒業生と保護者の方々の来場です。



卒業生整列

育てていただいた保護者の方々に、晴れの日の姿を披露します。



表彰状授与  
大阪府知事賞を受賞した廣崎 心(ひろさき こところ)さんが表彰状を授与されました。



表彰状授与  
日本私立中学校高等学校連合会会長賞を受賞した坂西 尊(さかにし たける)さんが表彰状を授与されました。



表彰状授与  
大阪府私立中学校高等学校連合会会長賞を受賞した柳川 千春(やながわ ちはる)さんが表彰状を授与されました。



卒業生を代表して、恵本 菜奈(えもと まな)さんが卒業生のことばを読み上げました。



卒業生を代表して、佐々木 悠翔(ささき とわ)さんが卒業記念品目録の贈呈を行いました。



学校長式辞



理事長祝辞



PTA会長祝辞



卒業証書を手し、喜びに湧く卒業生の姿のひとつです。

## 進路指導部

### 挑戦を続けた高校3年生！ 受験で培ったものは一生の財産！ 1・2年生も先輩の姿を見て早くから準備しよう！



今年度の受験もゴールが見えてきました。高校3年生は沢山の苦勞と我慢を強いられる環境の中、この3年間の集大成ともいえる「進路獲得」に向けて挑戦しました。今年は全国的に難関校に挑戦する傾向が強く、高校3年生も多くの方が最後まで諦めずに挑戦し続け、合格を勝ち取っていました。数年前の入学定員の厳格化時代に比べると、合格者は大幅に増えています。また、この数年で、「情報」「データサイエンス」「国際」「心理」などの語を冠にした学部を新設し、学部・学科の改組を進める学校も増えています。情報のあふれる時代において、インターネットを駆使したPRも進む中、受験生側は自分のやりたいことをしっかりと

捉えた上で学校選びをする必要があります。家族や学友とともに、情報の収集や取捨選択に努めてください。

### 進路探究「マイ・ストーリー」を 夏期講習期間中に実施！ 全国大会へ2名が出場！



高校2年生進学コースの生徒を対象に希望者を募り、夏期講習期間中に進路探究を実施しました。呼びかけに対して8名の生徒が手を挙げ、取り組みに臨みました。「マイ・ストーリー」は「自分自信を見つめ直し、過去・今・そして未来の自分を考える」というものです。1日目は、参加者の緊張をほぐすアイスブレイクとしてソーシャル・チェンジという教材を使用しました。この教材に即し、出された題に対して複数人が自由に意見交換をするブレインストーミングからプレゼンテーションに至るまでを2時間で行いました。2日目以降からは「マイ・ストーリー」作成に向け、自分史制

作という1つのゴールに向けて各自さまざまな取り組みを重ねました。そこで制作したものを12月に仕上げ全国大会へのエントリーをしたところ、2名の生徒が出場を決めました。全国大会はオンラインで2月19日(日)に開催されました。

この進路探究への取り組みを経ての何よりの収穫は、「自分の将来について深く考える機会を得たこと」です。参加者は自分の将来について、実に深く考察することができたように感じました。新しいことへの挑戦、勇気を出しての参加は、簡単なようで難しいものです。取り組んだ生徒たちがこれからどのように自分と向き合っていくのか、楽しみに見守りたいと考えています。

	砥川 紘典 (とがわ こうすけ) さん 「苦手意識と僕」
	岩出 結里 (いわで ゆり) さん 「自分を表現させてくれるもの」

異文化体験  
異文化交流

# マルチカルチャーデー

附属中学校では、日頃の英語教育や国際理解教育の成果を試し、多文化共生の大切さをより深く理解するために、毎年12月に「マルチカルチャーデー」という日を設けています。



## 12月22日(木) 中1(校内)

中学1年生は様々な国の文化や遊びを体験しながら国際理解のあり方を学ぶ場として、公益財団大阪府国際交流財団より OFIX 国際理解教育外国人サポーターの方を派遣していただき、校内で様々な異文化交流体験を実施しています。今年度は中国・ベトナム・ベネズエラ・アメリカの4カ国の留学生の方に来ていただきました。初めにホールにてそれぞれの国の紹介を聞きます。生徒たちは実際にそこで暮らしていたサポーターの方々のお話に耳を傾け、スライドに映し出される景色に感嘆していました。「スライドや写真、動画を見ることができてわかりやすかった」「文化や自然のことを知ることができてよ

かった」「日本と似ているところがあって興味が湧いた」など、いろいろな声を上げていました。

その後、体育館やホールに分かれて、実際に各国の文化を体験しました。現地の音楽にあわせて踊ったり、紙を使った対戦型のフットボールのゲームをしたりと、体験を通じて交流を深め、楽しい時間を過ごすことができました。

これまでに学んできた知識と今回の体験を経て、「実際にその国に行って、もっとたくさんを知りたい」「その国の言葉で色々な人とおしゃべりしたい」など、世界の様々な文化への興味・関心が高まり、知的好奇心を養う1日となりました。



## 12月14日(水) 中2(校内)

中学2年生は「国際的な平和学習」をテーマにマルチカルチャーデーを実施しました。

具体的な内容として「貧困」と「紛争」を大きな2つの柱に設定し、理解を深めました。

現在、日本でも貧困は大きな社会問題です。しかし、海外に目を向けると、日本と比較にならないほど過酷な貧困状態の長く続く国が存在しています。そういった国々の実情について、社会科の教科担当がスライドを用いて講義を行いました。

世界には、1日に自由に使えるお金が200円にも満たない家庭の子どもたちが3億5550万人もいます(2020年 UNICEF 調べ)。この200円未満という金額は、国際貧困ラインの中でも「極度の貧困」状態を指します。この数は全世界の子どもの6人に1人に相当し、主にアフリカ大陸に多く見られます。生徒の中にアフリカへ渡航したことのある者はほぼ存在せず、言葉だけ

ではリアリティの感じられない状況です。従って、写真やグラフ、イラストなどを用いてわかりやすく紹介しました。

一方、昨年からはまったロシアとウクライナの戦争にも見られるように、第二次世界大戦以降の世界情勢はいまだ不安定な状態です。国土が海に面さないいわゆる「内陸国」では、現在もなお様々な紛争問題を抱える地域が多くあります。前半の「貧困」についての講義に続いて、JICA(国際協力機構)からゲスト講師をお招きして紛争地域の実情や体験談を話していただき

ました。ゲスト講師の先生は、ヨルダンに長期にわたって滞在された経験から、現地での生活の様子を写真などで紹介してくださいました。

中でも印象的だったのは、難民キャンプのお話です。ヨルダンは紛争発生地域ではありませんが、イラク、サウジアラビア、シリア、イスラエル、パレスチナなどの紛争当事国が近隣にあることから、多くの難民が流入しています。治安への影響や難民キャンプの雰囲気などを、講師の先生から分かりやすく教えていただきました。



## 12月23日(金) 中3(ECC国際外語専門学校)



中学3年生は梅田にあるECC国際外語専門学校の「グローバル体験プログラム」に参加しました。

今年度は「英語で留学・ホームステイ体験」。まずは搭乗手続きや入国審査における基礎知識を習得します。テキストに載っている会話の流れをしっかりと頭に入れ、実践に移ります。チェックインカウンターで手続きに挑戦した後、飛行機内で離着陸の安全確認や座席操作手順、機内サービスなど、空港に到着するまでの流れを英語で実践、体験しました。カウンターや飛行機内を模したシチュエーションルームでの体験は、本当に海の向こうへ飛び立ったかのような気持ちになります。そして、次はホストファミリーとの初対面時の流れを1人ずつ体験します。日

本から持ってきたお土産を渡し、説明する流れを留学生スタッフと一対一で練習しながら、日常的に使うフレーズを学びました。また、留学生スタッフと英語でフリートークに挑戦し、初対面の挨拶から趣味、自分の好きなもの、休みの日の過ごし方など、自由なトピックでの会話を楽しみました。

どの体験も、最初は「うまく話せるかな」と緊張していた生徒たちですが、いざ始めてみると自分から臆することなく話しかけ、「本当に飛行機に乗っているみたい!」「うまくお土産を説明できた!」と英語でのチャレンジを意欲的に楽しんでいました。

このプログラムの修了後は、「これまでの3年間の学びに自信がつき、今まで以上に英語に対する勉強意欲がさらに高まった」「もっと英語を勉強して積極的に色々な人と交流していきたい」というような声も聞こえてきました。



どの学年も新型コロナウイルス感染防止対策として「少人数のグループを作る」「使ったものはすぐに消毒する」「密を避ける」などを徹底し、その中で物おじせず、楽しみながら自分たちの意見を伝え、培ってきた力を発揮していました。

卒業生の活躍



# 厳しい自己管理の道の先に「当たり前にある安全」を見据えて

幼い頃の「カッコいいな」をきっかけとして、現在航空の世界で活躍する加藤さん。ご多忙の合間を縫って、ご自分の努力やお仕事の魅力などを語っていただきました。



かとう ゆうたろう  
加藤 優汰郎さん



### 経歴

2013年 3月 大阪学芸高等学校 卒業  
 2013年 4月 大阪大学工学部応用理工学科 入学  
 2017年 3月 大阪大学工学部応用理工学科 卒業  
 2017年 6月 航空大学校 入学  
 2019年12月 航空大学校 卒業  
 2020年 2月 ANA ウイングス株式会社 入社

### ▶ 現在なさっているお仕事について教えてください

私は ANA ウイングスでボーイング 737 という飛行機の副操縦士として、北海道から沖縄まで日本国内の各地を結んでお客様をお送りしています。ANA ウイングスという名前にはなじみがないかもしれませんが、実は ANA ブランドの国内線の約半数の運航を、小型機を使って担っている会社です。

勤務として、一日に平均して2、3便に乗務します。日帰りの勤務もありますが、宿泊を伴うパターンも多く、月の3分の1ほど家を空けることもある仕事です。

### ▶ どのような高校生活を送っておられましたか

高校に入り、先生方が熱心かつ親身になって教えて下さったおかげで、勉強の面白さを知りました。理系科目を中心に、夢中で勉強をしていました。特に数学と物理は自信をもって得意と言えるようになりまして。一方で苦手な社会はとことん毛嫌いしており、授業中に落書きをしたりして怒られたことも何度か。ご迷惑をおかけした当時の先生方、申し訳ございません。

友達とはゲームをしたり、漫画を交換して読んだり、時折天王寺、梅田、難波などに出掛けたり、と、どこにでもある高校生活を楽しく送っていました。

### ▶ 現在のお仕事を目指したきっかけは何ですか

小さい頃に弟と二人で飛行機に乗る機会があったのですが、その時のパイロットが搭乗口まで来て声を掛けてくださいました。当時の私はとても不安な気持ちでしたが、「大丈夫だよ」と掛けてくださったその言葉を聞いて、安心したのを覚えています。幼いながらにパイロットってカッコいいなと思ったのがきっかけです。



### ▶ 現在のお仕事に関わるために努力なさったこと・苦勞なさったことを教えてください

パイロットになるためには訓練を重ねて審査を受け、ライセンスを取得する必要があります。訓練では限られた期間の中で一定のレベルに達することが求められます。この「限られた期間」の短いことがポイントです。航空大学校では約2年間、ANA ウイングス入社後は約1年間、訓練期間が設けられました。この期間に必要な知識・技量を習得するためには自学だけでは難しく、訓練同期や先輩方の協力や共同努力が不可欠です。同期みんなで情報を共有し、助け合って訓練を進めることに初めは慣れず、苦勞しました。

### ▶ 現在のお仕事に関わるために必要な知識・技能・資格は何ですか

必要な知識は多岐にわたります。初期課程では航空力学、発動機 (エンジン) システム、電気回路、航空法、航空管制、航空英語、気象などを学びます。機種毎にライセンスがあり、その機種のシステムや性能についての知識も必要になります。

知識だけではなく、技量も必要です。通常操作はもちろん、エンジンの故障や与圧システムの不具合といった緊急時に臨機応変に対応する力も、シミュレーターを用いて確認されます。

また、航空身体検査証明も必要です。資格維持のために毎年身体検査を受けるので、健康管理も仕事の一つです。

### ▶ 現在のお仕事の魅力・やりがい・苦勞について教えてください

魅力は大きく2つあります。一つは空からの景色を鑑賞できることです。山や湖、普段生活している町も、俯瞰して見ると新しい発見があります。冬には雪景色、秋には紅葉といった季節ごとの各地の光景が見られることも、パイロット業務ならではの魅力です。

もう一つは各地の風土に触れられることです。宿泊を伴う勤務も多いので、その土地でちょっとした観光ができます。翌日の勤務までの時間が短く、休養を取るだけになることも多いのですが、ご当地グルメを食べるだけでも得した気分になります。

もちろん苦勞もあります。勤務が早朝から始まる時もあり、午後から始まって夜遅くに帰る時もあり、不規則な生活リズムをこなさなければなりません。また、知識・技量は定期的に訓練と審査によって確認されます。安全運航を堅持するために当然で

はありますが、常に自己管理をしておかなければなりません。

しかしながらその分、やりがいもあります。観光や仕事、帰省など、ご利用いただくお客様の目的は様々です。到着地で降機されるお客様の姿がコックピットから見えるのですが、何事もなくお送りできたことを毎度嬉しく思います。たまに子供たちが笑顔でこちらへ手を振ってくれることがありますが、その時は私も全力で振り返ります。疲れも吹っ飛ばす癒しの時です。

### ▶ 将来の目標・夢は何ですか

今は機長になることが目標です。多くのお客様の命を預かる身として、自信と責任をもって、目的地まで安全に皆様をお送りできる一人前の機長になるべく、日々経験や知識、技量を積み重ねています。

機長に昇格できた折には、私を支えてくれている両親や家族を私の操縦する飛行機に乗せて、彼らに空の旅を楽しんでもらうことで、少しでも恩返しができたらいいなと思っています。

### ▶ 在校生へのメッセージをお願いします

今を精一杯頑張ってください！学生時代の経験が役に立った、と社会人になって感じる事が多々あります。勉強や部活だけではありません。趣味だったり、旅行だったり、些細なことにもふと疑問を抱いて調べたこともそうです。多種多様な経験が積み重なって自分が形作られます。面白そうなことはどんどん調べて、やって、考えて、自分の引き出しを増やしておくとおもしろいですし、いつか自分を助けることになると信じています。



# 自分を磨き 世界に飛躍



東京オリンピックで競技として採用され、日本選手が大活躍したスケートボード。  
競技中・競技外の別なく、国籍を超えて称え合う選手達の交流の様子も話題になりました。  
スケートボードに真剣に取り組み、技と心を磨く若者が本校にもいます。今回はその中から2人を紹介します。

## 高校2年生

やま づき あい む  
**山附 明夢さん**

スケートボード

### 最近の戦歴

- 28th ANNUAL TAMPA AM (2022年11月10日～13日 アメリカ・フロリダ州タンパ) 第7位
- 第5回マイナビ 日本スケートボード選手権大会 (2022年11月24日～27日 新潟) 第3位  
・・・この結果をうけて 2023年オリンピック 強化指定選手に選ばれる (期間：2023年1月～12月)



## 高校2年生

いし まる あおい  
**石丸 葵さん**

スケートボード

### 最近の戦歴

- CHIMERA A-SIDE (skip factory) girls (2021年6月 埼玉) 第3位
- world rookie tour girls (2021年10月 オーストラリア・インスブルック) 第1位
- DAMN AM JAPAN 2022 girls (2022年9月23日～25日 新潟) 第7位
- 第5回マイナビ 日本スケートボード選手権大会 (2022年11月24日～27日 新潟) 第12位



### ▶スケートボードを始めたきっかけはどのようなことでしたか

父から聞いた話です。父はもともと趣味としてスノーボードをやっていたのですが、大学進学を機に大阪に来て、これも趣味としてスケートボードを始めたそうです。父はその後一時期スケートボードからは遠ざかっていたのですが、もう一度楽しみとして再開しようかなと思い、その時4歳だった僕を「一緒にやろう」と誘ったそうです。父とは今も楽しみとして一緒にやっています。ちなみに、「父に誘われて始めた」という記憶は定かではないのですが。

### ▶活動を続ける中で良かったこと・辛かったことなどを教えてください

良かったこととしては、何よりもまず、友達が増えたことです。スケートボードをやっている人はフレンドリーで優しい方が多く、向こうから積極的に声を掛けてきてくれます。年齢層も小さな子からなんと80歳代まで幅広く、いろいろなことが学べて楽しさを感じています。辛かったこととしては、捻挫や成長に伴う痛みで滑れない時期があったことです。また、勝てるはずの試合で負けたときも辛さがあります。日本でよく採用されている判定方法は次の通りです。5人の審判員がそれぞれ100点満点で採点した点数の内、最高点と最低点を外して真ん中の3人の合計点(300点満点)を出し、その点数でもってジャッジします。技の難易度や、制限時間内にもどのような技をどれだけ入れるかなど、判定は複雑です。そこで自分が思っていたより点数が出なかったとき、「え、それだけしか出なかった

の?」と内心辛く感じます。ただ、ジャッジされた結果なので、僕としては受け入れるべきかな、と思うことにしています。

### ▶学業と活動を両立させるために実行している努力・工夫を教えてください

学校にいるとき以外は勉強時間を取ることが難しいので、授業内で理解できるように努力しています。遠征が続くと授業を受けられない日々が続く、大丈夫かな、追いつけるかな、と不安になりますが、そこは頑張ろうと心に決めています。

### ▶今後に向けての抱負および将来の目標を教えてください

スケートボードはアメリカ発祥のスポーツです。デッキもウエアも、大きいメーカーの本社はアメリカにあるものが多いのです。僕は本場で活動したいという思いを抱いています。僕にとってスケートボードは、「競技」「戦い」というよりも、小さいときから感じてきた「楽しみ」の延長線上にあります。ただ、大会などに出場を重ね、結果が出るようになるにつれて、自分としてどこまでできるか極めてみたい、と考えるようになりました。もっともっと上手くなって、アメリカで活躍したい。これが今の僕の目標です。



### ▶スケートボードを始めたきっかけはどのようなことでしたか

小学5年生の時、自宅の近くに新しくスケートボードスクールが出来たので、興味がわき、自分からお願いしてそのスクールに入りました。やってみたらとても楽しくて、スケートボードにはまりました。スクールは週1回でしたが、他に自主練出来る時間もあり、気付くと毎日通っていました。小学6年生から大会に出場するようになりました。

### ▶活動を続ける中で良かったこと・辛かったことなどを教えてください

良いことはいくつもあります。思いつくままに挙げてみます。第一に、世界中に友達ができることです。そしてその友達と一緒に喜び合えることです。また、日本や世界の各地に遠征に行くので多様な経験ができ、思い出も増えていくことです。そして、技が成功した時や「カッコイイ!」といわれた時の嬉しさも良いことのひとつです。達成感が半端なく、これも全て、スケートボードという熱中できるものを持てたからだと思います。辛いのは、なかなか技が乗れなくて悔しい、と感じる時です。大会で

決めたかった技を成功させることができなかつた時は本当に悔しく辛く思います。

それと、転んだ時は痛い。今のところ大きい怪我はありませんが。

### ▶学業と活動を両立させるために実行している努力・工夫を教えてください

日々の授業をしっかりと聴き、課題は期限を守って提出するように心掛けています。テストに向けての勉強も、直前ではなく1週間前には取り組めるように計画します。併せて、先生や友達に積極的に質問して、重要なところを把握しています。

### ▶今後に向けての抱負および将来の目標を教えてください

大会に出場して実績を積みながら、ストリートでの撮影にも力を注いでいきたいと考えています。街なかでスケートボードをしている姿を撮影し、それを編集して2、3分の動画にします。この動画を名刺代わりにして、自分の好きなブランドにアピールし、サポートを依頼します。サポートが成立すると、そのブランドのグッズを身に付けたり、デッキにステッカーを貼ったりすることができます。私は、「スケートボードで頑張っている自分」を私自身の優れたところとしてアピールしていきたい。そうすることによってブランドの社会的イメージアップに貢献したいと望んでいます。



学芸ニュース

国際科

# 1年B組・C組 目標に向けて体験!!

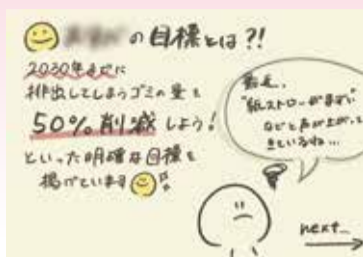
## 1年B組・C組 12月午前中授業

1年B組・C組は1年留学コースの生徒とグローバルコースの生徒が混在しています。1年3学期からはそれぞれのコース・選択によって学校生活が異なってきます。2023年1月からカナダまたはニュージーランドで1年間学ぶ1年留学コースの生徒、グローバルコースのうち2023年1月からターム留学(各自が希望する国を選択する1学期間の私費留学)する生徒、日本に残る生徒、と方向が分かれています。分かれるに先立ち、日本と海外の文化の違いを知るとともに、SDGsについて学びを深めるという目標を掲げて、12月午前中授業のHRの時間に国際科独自の取り組みを行いました。

まず、「文化の違いを楽しく学ぼう」ということを目標に、実際に日本と海外の伝統的な遊びを体験しました。日本の遊びとしては、各クラスで百人一首大会を行いました。100枚の札を床に広げ、チーム対抗戦で札を取り合いました。「生まれて初めて百人一首をして、すごく楽しかった!」という生徒もあり、楽しみながら日本の伝統文化に触れることができました。世界の遊びとしては、バングラデシュの鬼ごっこ「チ・プリ」とモロッ



コの鬼ごっこ「にわとりといも虫」を南館のスポーツコートで行いました。特に「にわとりといも虫」はチームの連携や結束力が試される遊びで、ひととき盛り上がりました。



また、SDGs探究活動として、大企業におけるSDGsの取り組みを調べて発表しました。自分が調べてみたい企業の一つを選び、どういった取り組みを実践しているのかについて各自で調べ、スライドにまとめました。その際、なぜその取り組みを実践しているのか、社会的にどういったメリットがあるのか、将来的にどう繋がるのかについても追究し、各クラス3グループに分けて、一人ずつグループ内発表を行いました。発表後は質問も活発に飛び交い、身近な企業に関して新しい発見や気づきがありました。

さらに、グローバルコースの生徒は12月22日(木)、ECCグローバル体験プログラムに参加しました。必要な英語表現について留学生スタッフと共に学び、英語でオーダー体験を行ったり、SDGsをテーマに世界が抱える諸問題についてディスカッションを行ったりしました。体験後、生徒からは「思ったことを英語で伝えることは難しかったけれど、伝えようとする気持ちがあればできるとわかった。今まで以上に積極的にコミュニケーションをとり、自分の英語力を磨いていきたい。」「SDGsについて英語で留学生と



話し合うのは難しかったけれど、今後の自分にできることは何かについて考えるきっかけになった。」という積極的な声を聞くことができました。

12月23日(金)午前中授業最終日には、B組・C組合同でホールにて、留学に行く生徒に向けた送別会を実施しました。留学に行く生徒は一人ずつ、現地で頑張りたいことや留学後の自分の目標などの抱負を発表しました。日本に残る生徒は、各自の特技を披露する動画やはなむけの言葉をまとめた動画を事前に撮影し、それらを編集して一続きにまとめたものを上映しました。2学期間ともに過ごした仲間との暫しの別れを実感し、涙ぐむ姿も見受けられましたが、それと同時に、それぞれが自分の場所で頑張ると決意を新たにされた様子も感じ取ることができました。



## Terry Fox Run



10月21日(金)、OGCISの生徒たちは長居公園にて「テリー・フォックスラン」を行いました。カナダでは「義足の英雄」として知られているテリー・フォックス氏は1958年に生まれ、18歳の時にがんの一種である骨肉腫を患いました。当時の医学では治療が難しく、彼は右脚を切断することになってしまいました。入院中、がん闘う子供たちの姿を見続けた彼は、なんとか支援したいという思いから「希望のマラソン」という名前でカナダ横断を目標とするマラソンを行い、がん研究のための資金を募りました。がんの肺転移により、彼は1980年に志半ばで命



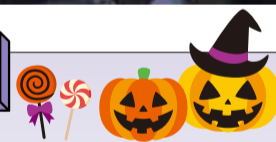
を落としました。彼の遺志を継いで現在まで世界中で行われているチャリティーマラソンが、この「テリー・フォックスラン」です。集まった寄付金



はがん研究の促進に役立てられ、これまでに多くの命が救われてきました。この日、生徒たちはテリー・フォックス氏の顔が印刷された記念Tシャツを着て、長居公園内を走りました。

大阪学芸高等学校・附属中学校の全校生徒にもこの取り組みを伝え、10月17日(月)～11月21日(月)の期間で校内コンビニに募金箱を設置して協力をお願いしたところ、40,182円の募金が集まりました。集まった募金はテリー・フォックス財団を通して寄付をしました。

## Halloween



10月31日(月)、ハロウィンイベントを行いました。カナダの高校では、学校の団結力やチームワークの強化を目的にハロウィンイベントが行われます。OGCISの生徒や教員も各自工夫した衣装を身にまとい、イベントに参加しました。教室内に設置されたブースでは、科学的な実験や様々なミニゲームが用意され、3学年の生徒と教員が楽しく交流しました。イベントに向けて、各授業でもハロウィン関連の取り組みを行いました。科学の授業では結晶のオーナメントを作りました。数学の授業では、カボチャや魔女のイラストを描き、イラスト直線や曲線を1次関数や2次関数の式で表しました。英語の授業では、オリジナルの物語を作成しました。これらの作品はイベントで展示され、雰囲気盛り上げました。



※掲載写真は全て、撮影時のみマスクを外しています

# サイエンスラボ News Vol.2 附属 中学校 編

サイエンスラボNews第2回は、附属中学校での授業の様子を紹介します。コロナ禍のため、グループ学習がなかなかできませんでしたが、今年度6月から順次、各分野（物理・化学・生物・地学）にわたってサイエンスラボを利用して理科実験を行いました。

中学3年生

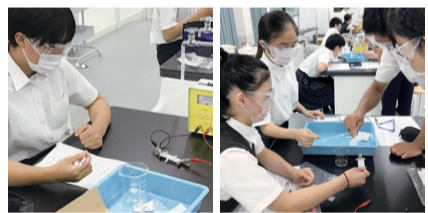
## 化学分野

### 酸性やアルカリ性を決めているもの

酸性の水溶液はBTB液を黄色に変え、アルカリ性の水溶液はBTB液を青色に変えます。

では各水溶液に含まれている何の成分が色を変えるのか、酸性やアルカリ性を決めているものが何なのか。それを調べるため、グループに分かれて実験を行いました。

塩酸や水酸化ナトリウム水溶液を染み込ませた紙をリトマス紙にのせ、電源装置につないだのち、約5分間電圧を加えて電流を流しました。生徒たちはリトマス紙がどのように変化するかをじっくり観察し、結果をレポートにまとめました。色の変化から、酸性の水溶液は「水素イオン(H<sup>+</sup>)」、アルカリ性の水溶液は「水酸化物イオン(OH<sup>-</sup>)」が原因で色が変わっていることを突き止めました。中学3年生にとって、実験を行うのは中学1年生以来、サイエンスラボ利用は初めてでした。危険な薬品から目を守るために保護メガネをかけたり、電源装置を使うためにみんなで協力したりしながら、目を輝かせて実験を行っていました。



中学2年生

## 生物分野

### オオカナダモの葉、タマネギの細胞の顕微鏡による観察



中学2年生にとっては入学してから初めての実験となりました。まずはオオカナダモの葉を、光学顕微鏡を使って観察しました。プレパラートを作成し、ステージを調節しながらピントを合わせて細胞を見つけた瞬間、生徒たちは「すごい」と歓声をあげました。さらに倍率を上げ、葉緑体が動いている様子を目の当たりにし、生徒たちの感激は倍増しました。

続いて、酢酸オルセイン溶液で染色したタマネギ表皮の細胞を観察しました。染まった核を観察し、倍率ごとにレポートにまとめていきました。生徒たちは赤く染まった丸い核に驚いた様子で、一生懸命スケッチしていました。



## 物理分野

### 電圧と電流の関係(オームの法則)

3回にわたって、電気回路に関する実験を行いました。まず1回目は回路図を見ながら、導線や乾電池、豆電球、スイッチを接続し、直列回路や並列回路を作りました。そして2回目は、計測したい部分に電流計や電圧計をつないで、各場所の電流の強さや電圧の大きさを測定しました。最初は導線をつなぐのに一苦労していた生徒たちでしたが、回を重ねるごとに手際よく回路を組むことができました。

3回目は、電圧を徐々に上げながら固定抵抗に電流を流し、電流の強さがどのように変化していくのか実験しました。測定し終わったら、レポートの表に数値を書き込み、表をもとにグラフを仕上げていきました。グラフは見事に直線を描き、電圧の大きさと電流の強さには比例関係があるというオームの法則が成り立つことを導き出しました。また、固定抵抗2種類を使って直列回路と並列回路をつくり、電流はどちらの回路の方が流れやすいかも調べました。



中学1年生

## 地学分野

### マグマのねばりけと火山の形の関係

中学1年生は「マグマのねばりけと火山の形」の関係を確かめる実験を行いました。1000℃ほどの高温のマグマを実際に実験室で扱うことはできないため、マグマのかわりに洗濯のりからつくるスライムを用いました。まずは、ホウ砂水溶液とPVAの洗濯のりを混ぜ合わせて、マグマを模したスライムをつくりました。洗濯のりにはあらかじめ食紅で赤く色をつけ、マグマの雰囲気を出しました。ホウ砂水溶液の濃度によって、異なる硬さのスライムができました。生徒たちは「固まったー！」など興奮した様子で楽しそうに活動していました。スライムができたらいよいよ実験のメインである噴火の再現実験です。穴をあけた紙皿の下から、しぼり袋に入れたスライムを絞り出すことで噴火を再現しました。各自のiPadを使ってその様子を動画撮影しました。実験レポートには「ねばりけによって流れ方が変わった」や「かたいスライムは盛り上がっていた」というものに加え、「ねばりけが強いと、噴火するときの力の大きさが大きくなる」のような一歩進んだ気付きを得た生徒もいました。生徒たちは皆楽しく実験ができたようで、次の実験の機会を楽しみにする声も多く上がっていました。



# ボランティアサークル



令和4年度の登録者数は、高校生221名(1年89名、2年79名、3年53名)、附属中学生17名で、意欲ある生徒たちが多数登録しました。登録生徒中、特に高校1年生は参加回数も多く、活動に貢献しました。

昨年度に比べて「セレッソボランティア」の活動回数も多く、試合以外にファン感謝デーにも参加しました。セレッソ大阪堺レディースの試合ではボランティア活動に加えて、サポーターマッチを実施させていただくことができました。その他、本校学校説明会の補助生徒業務や大阪国際交流センターでのボランティア活動などにも参加しました。来年度も積極的に活動していきたいと考えています。



## 活動報告

### ●セレッソボランティア

セレッソボランティアは、大阪学芸高校がオフィシャルパートナーであるセレッソ大阪の実施する試合において、準備や運営のお手伝いをするボランティアサークルの柱となる活動です。

5/6(J1/ジュビロ戦)、5/7(セレッソレディース/愛媛L戦)、5/28(セレッソレディース/オルカ戦)、6/4(J1/湘南ベルマーレ戦)、6/12(サポーターマッチ)、6/26(J1/清水エスパルス戦)、7/17(ファン感謝デー)、7/30(J1/アビスパ福岡戦)、8/6(J1/ヴィッセル神戸戦)、8/27(J1/サンフレッチェ広島戦)、9/21(J1/浦和レッズ戦)10/8(セレッソレディース/スペランツァ大阪戦)

### ●学校説明会補助生徒業務

(8/23・9/17・11/3・11/19)

### ●国際ボランティア

(11/19「アイハウスde多文化体験2022」)



本校南館駐輪場の奥に佇む平屋の建物があります。名を「花香庵（かきようあん）」といい、畳敷き30畳の大広間を備えています。今回はこの花香庵で活動する書道部、茶道同好会、競技カルタ同好会を紹介いたします。

# 技を鍛え こころを磨く

花香庵

## 競技カルタ同好会

競技カルタ同好会は、毎週火曜日と土曜日の放課後、花香庵で活動しています。新型コロナウイルス感染拡大時には対戦練習を控えるなど、思うように練習ができなかった中でも地道に練習を重ねてきました。その結果、今年度は初めて有段者が誕生し、式段にも昇格しました。

今年度、参加した大会は次の通りです。

- 5月3日 第30回大阪高等学校かるた大会 (団体戦)
- 5月8日 第30回大阪高等学校かるた大会 (第1回OKC・個人戦・高3の部)
- 6月25日 第30回大阪高等学校かるた大会 (第1回OKC・個人戦・高1・2の部)  
第4回大阪高等学校かるた新人戦 (個人戦)
- 7月24日 第44回全国高等学校選手権大会 (個人戦・E級)
- 11月12日 第43回大阪府高等学校芸術文化祭
- 小倉百人一首部門 (第2回OKC・個人戦)

7月の全国高等学校選手権大会は、かるたの聖地といわれる滋賀県の近江神宮とその周辺で行われる大きな大会で、全国から多くの高校生が参加します。本校の競技カルタ同好会でも、3年生の引退前最後の大会となるため、一つでも多く勝ち残れるようにと部員全員で頑張っています。



## 書道部

伝統に学び、創造の翼を育む。  
創部よりまもなく7年を迎える書道部にあって、部員は中・高の別なく共に活動する中で、真摯な姿勢で書に臨み、作品制作に励んでいます。  
創部以来、大阪府高等学校芸術文化祭書道部門、大阪私立高校書道展を始め、全国書画展覧会、日本学書展などに毎年出品し、大賞受賞や入選の栄にも浴しています。また今年度6月開催のサポーターズマッチにおいて全紙軸作品を披露し、学芸新聞第20号で紹介されました。  
「文字を書く」という行為を、伝達的手段から精神世界の表現にまで高めたい。  
そのための研鑽をたゆみなく続けています。作品展示の際は、ぜひ足をお運びください。



## 茶道同好会

茶道同好会は、中学生1名、高校生9名で月曜日の放課後に活動しています。裏千家の先生からご指導をいただいております。部員は皆熱心にお稽古に励んでいます。部員のほとんどが初心者ですが、まずはお茶の飲み方や足の運び方、帛紗捌き（ふくささばき）などの基本を覚え、その後薄茶（うすちゃ）や濃茶（こいちゃ）のお点前ができるようにしていきます。棚を使ったお点前など、これからも覚えることはまだまだありますが、一つ一つできることが増えていくことも楽しみの一つです。  
ところで、茶道というと、「正座がしんどい！」などという声も多く聞かれますが、ご心配なく。お稽古するうちに段々と慣れていきますし、椅子に腰掛けてお茶を点てる立礼（りゅうれい）という形もあります。海外の方にお茶を召し上がっていただくこともあり、実は無理のない姿で楽しめるのです。美味しいお菓子と風味豊かなお茶のある静かな空間は、とても心地よく、くつろげる場所です。  
以前は文化祭でお茶会を開催しておりましたが、コロナ禍になってからはお茶会を開くことが難しくなっています。それでも、今年度は8月に地域のお茶会に参加したり、1月に先生のご自宅の初釜に参加させていただいたり経験が積むことができました。文化祭で再びお茶会ができるようになったあかつきには、皆さんにお菓子と美味しいお茶を差し上げられるように、お稽古に励んでいます。  
皆さんも、和室での静かな時間を過ごしてみませんか。茶道はいつからでも始められますので、どの学年の方も大歓迎です。月曜日の放課後、南館1階駐輪場奥の花香庵をのぞいてみてください。部員一同、心よりお待ちしております。

